

中島利郎・河原功編

緑蔭書房

〈新装版〉

日本統治期台湾文学
日本人作家作品集

全五卷●別巻一

植民地台湾文学、近代日本文学の空白をうめる

初の本格的作品集〈2刷〉

▼編者の言葉

一九八七年台湾において戒厳令が解除されて以降、台湾に関するあらゆる分野の研究が盛んになった。それは台湾のみにとどまらず日本においても然りである。

文学の分野にあっても葉石濤『台湾文学史綱』や前衛出版社『台湾作家全集』を始め『巫永福全集』『呂赫若著作集』『張深切全集』など個人作家の著作集や全集が（この他にも『楊逵全集』や『黃得時著作集』もまもなく出る）刊行され、また日本でも研文出版、田畑書店や東方書店などより翻訳書や資料集、研究論文集が出版されている。ただ、いずれも台湾人作家の作品、あるいは研究が主で、日本人作家に関するものはほとんどないといつてよい。戦後はともかく、戦前の台湾文学界には百名以上の日本人作家がいて作品を残し、台湾の近代文学構築の一翼を担っていたのであるが、いまはほとんどの作家が忘れ去られようとしている。

本叢書『日本統治期台湾文学 日本人作家作品集』では、それら日本人作家の代表作を通覧閲読できるように集成し、かつ研究資料としても使用できるようにできる限り初出の形態で復刻し（一部編集復刻）、作家年譜なども付録とした。戦前の日本本土の著名な作家たちの台湾観をも概観できるように「内地作家」を別巻とし、台湾文学のみならず日本文学の立場からの研究にも利便をはかった。

▼推薦の言葉

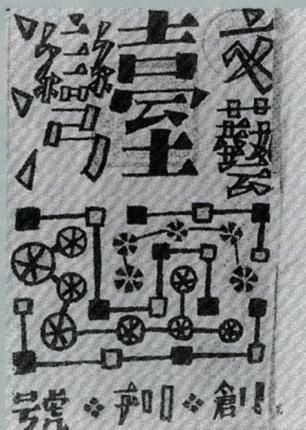
全貌をあらわしはじめた台湾文学

下村作次郎

▼天理大学教授

台湾文学は、日本の読者の前にいよいよその全貌をあらわしはじめた。こんど刊行される『日本統治期台湾文学 日本人作家作品集』（全5巻・別巻1）は、そんな予感を抱かせるに足る画期的な出版だといえよう。すでに半世紀も前の日本統治時代の台湾で、台湾文学の一翼をになった在台日本人作家と内地人作家の作品が、本格的な作品集として初めて編集出版されるのである。台湾文学に対する理解は、疑いもなくこれによっていっそうの深まりを増そう。

台湾文学の研究は、九〇年代に入って一気に開花した。台湾では今や文学研究の主流となったといつても過言ではない。かつてこの領域は荒野で、踏み入ってはならない危険地帯であったことなどどうそのようである。一九九四年十一月には、清華大学で戦前期の台湾文学をめぐる国際学会が初めて開かれ、台湾の学会、マスコミの大きな注目を浴びたが、そこでは頼和から周金波、さらに西川満までレベルの高い学術討論が交わされた。この度の出版は、こうした研究動向を熟知した編者の並々な努力のもとに成ったものである。本作品集は、同じく緑蔭書房から上梓された『周金波日本語作品集』とともに、台湾文学の必読の作品集として読まれよう。と同時に、現代の日本人としていかによむか、あるいはよみなおすが、問われることにもなるのである。



臺灣公論

十月號

社団法人編輯部・新屋格

吉屋に
激す!

大正十三年十月
創刊 杉本和朗

▼推薦の言葉

多様な言説を紡ぎだす台湾文学

藤井省三

▼東京大学教授

二〇世紀の台湾文学は、日本語と北京語という近代東アジアにおける二大「国語」圏の周縁に位置してきた。この周縁性こそが台湾文学の独自にして豊穡なる世界を可能にしたのである。

そのいっぽうで、日清戦争後から太平洋戦争敗戦までの五〇年間にわたり台湾を植民地として支配した日本の文学も、帝国主義的視点から台湾ナショナリズムへの共感にいたるまで、多様な言説を紡ぎだしている。

一九二〇年に台湾を訪れ台湾人ナショナルリストの前で日本人と台湾人との平等・友愛を語った佐藤春夫の傑作「女誠扇綺譚」も然り、鄭氏台湾の崩壊と総督府南方共栄圏構想の破局とを二重写しに描いた西川満の歴史小説「赤嵌記」も然り、若い職業婦人、若い母の視点から植民地社会を描き出した坂口裕子「鄭一家」も然りである。

中島利郎・河原功という日台文学交流史の巧みな「水先案内人」の編集になる『日本統治期台湾文学 日本人作家作品集』（全5巻・別巻1）は、大正・昭和戦前期の台湾をめぐる青春の希望と絶望とがせめぎ合う文学言説の世界へと私たちを導いてくれるに違いない。

▼推薦の言葉

中島さん、河原さんのお仕事に感謝

松永正義

▼一橋大学教授

これは多分に自戒としていうのだが、台湾関係の文書は、ともすると概説の繰返しになりやすい。まただれもが限られた数人の作家の範囲内で論じていて、なかなかその外へ広がっていない。それは台湾文学についての共通認識がまだあまりにも少なく、だれもがほとんどゼロに近いところから始めなければならないからだ。だからだれもが共通の資産として手軽にふまえられる作品集は、いままとも必要なものだと思う。

最近では日本語論が小さなブームになっていて、おかげで旧植民地文学に関する言及もややみられるようになってきたが、それを限られた材料にポストコロニアルふうの味付けをまぶしただけのものに終わらせないためにも、こうした基礎作業の出版は、時宜にかなうものと思う。

作品集の構成は、へんに総花的にならず、作家と時期をしぼって網羅的であろうとしているところがいい。わたしたちはその作家のその局面については、安心してここから考え始めることができる。また日本内地の作家の台湾を題材とする作品を集めた別巻も、貴重な仕事だ。朝鮮については早く六九年に朴春日『近代日本文学における朝鮮像』（未来社）のような仕事があるし、沖縄でも仲程昌徳編『広津和郎 さまよへる琉球人』（同時代社）などが思いつく。台湾については島田謹二『華麗島文学志』（明治書院）があるが、これは戦前の研究の集成であった。戦後これを継ぐべき研究は、わたしは河原さんのものぐらいいしかなかった。この別巻の意味は大きい。

編者である中島さん、河原さんの緻密な仕事ぶりには、つとに定評がある。このお二人の仕事であれば、わたしたちは絶対の信頼を置いて、そこから考え始めることができる。お二人の労多かつたであろう仕事と、こうした本をあえて出版されようとする緑蔭書房とに感謝したい。



第一卷 ● 西川満Ⅰ

中島利郎編

城隍爺祭「小説」『台湾婦人界』一九三四年
 鴨母皇帝(上)・(下)「小説」『台湾時報』一九三四年
 台湾顕風録(1)～(12)「散文」『台湾時報』一九三五～三六年
 楚々公主「小説」一九三五年
 梨花夫人「小説」『媽祖』一九三七年
 歌ごえ「創作」『媽祖』一九三七年
 劉夫人の秘密「媽祖」一九三七年
 盧王爺「小説」『華麗島』一九三九年

稲江治春詞「小説」『文芸台湾』一九四〇年
 赤嵌記「小説」『文芸台湾』一九四〇年
 雲林記「小説」『文芸台湾』一九四一年
 動力の人「台湾時報」一九四一年
 元宵記「小説」『新潮』一九四一年
 浪曼「小説」『文芸台湾』一九四一年
 朱氏記「小説」『文芸台湾』一九四二年
 採硫記「小説」『文芸台湾』一九四二年

牛のゐる村「小説」『文芸台湾』一九四三年
 城門開く「島民劇」『文芸台湾』一九四二年
 歴史のある台湾「随筆」『台湾時報』一九三八年
 芸術とは何ぞや「台湾警察時報」一九三八年
 台湾文芸界の展望「評論」『台湾時報』一九三九年
 新体制下の外地文化「台湾時報」一九四〇年
 外地文学の奨励「新潮」一九四二年

第二卷 ● 西川満Ⅱ

中島利郎編

台湾の汽車「随筆」『台湾時報』一九四二年
 二人獨逸人技師「創作」『台湾鉄道』一九四二年
 龍脈記「小説」『文芸台湾』一九四二年
 桃園の客 一九四三年
 幾山河「小説」『旬刊台新』一九四四年
 台湾縦貫鉄道(1)～(11)「小説」『文芸台湾』『台湾文芸』
 一九四三～四四年

解説(中島利郎)
 西川満著作年譜「戦前」(中島利郎編)
 付録一 西川満編集雑誌類一覽(中島利郎編)
 付録二 西川満研究文献目録(中島利郎編)
 付録三 西川満略歴「台湾時代」(中島利郎編)



第三卷 ● 濱田隼雄Ⅰ

河原功編

南方移民村「小説」一九四二年

第四卷 ● 濱田隼雄Ⅱ

河原功編

病牀日記「小説」『文芸台湾』一九四〇年
 横丁之図 前篇・後篇「小説」『文芸台湾』一九四〇年
 公園之図「小説」『文芸台湾』一九四一年
 行道「小説」『台湾時報』一九四一年
 盗難之図「小説」『文芸台湾』一九四一年

甘井君の私小説「小説」『文芸台湾』一九四二年
 草創 一～八「小説」『文芸台湾』一九四三～四四年(全8回)
 爐番「小説」『台湾時報』一九四四年
 萩「小説」一九四四年



携帯屈折計「小説」『台湾時報』一九四二年
蝙蝠「小説」一九四二年
技師八田氏についての覚書「文芸台湾」一九四二年

解説(河原功)
濱田隼雄著作年譜(濱田淑子・河原功編)
濱田隼雄略歴(濱田淑子編・河原功補筆)



第五卷 ● 坂口禱子 / 中山侑 / 川合三良

中島利郎編

● 坂口禱子

鄭一家「小説」『台湾時報』一九四一年
微涼「小説」『台湾文学』一九四二年
灯「小説」『台湾文学』一九四三年
曙光「小説」『台湾文学』一九四三年
時計草「小説」一九四三年
(参考) 時計草「台湾文学」一九四三年
遺書「小説」『台湾公論』一九四三年
孟蘭盆「小説」『台湾文学』一九四三年
川は流れ止まず―父母に代りて記す「小説」『台湾文芸』一九四四年

● 中山侑

青年と台湾「評論」『台湾時報』一九三六～三七年(連載)
ある抗議「創作」『台湾文学』一九四一年
客間(未定稿)「戯曲」『台湾文学』一九四二年
流れる雲「戯曲」『台湾文学』一九四二年
午後の雨「戯曲」『台湾文学』一九四三年
● 川合三良
転校「小説」『文芸台湾』一九四一年
或る時期「小説」『文芸台湾』一九四一年
出生「小説」『文芸台湾』一九四一年

● 廣津和郎

婚約「小説」『文芸台湾』一九四二年
一つの縮図「小説」『文芸台湾』一九四二年
襦袢「小説」『文芸台湾』一九四二年
康吉と増子「小説」『文芸台湾』一九四二年
家がない家主「小説」『文芸台湾』一九四三年
解説(中島利郎)
坂口禱子著作年譜(中島利郎編)
中山侑著作年譜(中島利郎編)
川合三良著作年譜(中島利郎編)

別 卷 ● 内地作家

宇野浩二 / 佐藤春夫 / 伊藤永之介 / 中村地平 / 真杉静枝 / 田村泰次郎 / 北原白秋 / 大鹿卓 / 野上弥生子 / 窪川(佐多)稲子 / 丹羽文雄 / 広津和郎

河原功編

● 宇野浩二

揺籠の唄の思出「童話」『少女の友』一九一五年

● 佐藤春夫

霧社「創作」『改造』一九二五年
女誠扇綺譚「創作」『女性』一九二五年
殖民地の旅 (1)・(2)「創作」『中央公論』一九三三年

● 伊藤永之介

総督府模範竹林「小説」『文芸戦線』一九三〇年

● 中村地平

平地蕃人「小説」『中央公論』一九三〇年
熱帯柳の種子「創作」『作品』一九三三年
旅さきにて「創作」『行動』一九三四年

● 真杉静枝

蕃界の女「創作」『文芸』一九三九年
南方の暮「創作」『桜』一九三四年

● 田村泰次郎

日月潭工事「小説」『行動』一九三四年

● 北原白秋

華麗嶋風物誌 (一)・(二)「紀行」『改造』一九三四年
● 大鹿卓
野蛮人「小説」『中央公論』一九三五年
欲望「小説」『作品』一九三五年

● 野上弥生子

台湾遊記「紀行」『改造』一九三六年
蕃界の人々「紀行」『改造』一九三六年

● 窪川(佐多)稲子

台湾の旅 (1)・(4)「創作」『台湾公論』一九四三～四四年

● 丹羽文雄

台湾の息吹 (1)・(7)「小説」『台湾公論』一九四四年

略年譜・解説(河原功)

台湾とところどころ「隨筆」『台湾公論』一九四四年

組見本(縮小)

南方移民村(第三巻収録)

しかし、村の生活が決してのんびりしたものでない、とわかるには三日とかならなかつた。移民村を経営してゐる臺東の製糖會社に挨拶に寄つたとき、マラリヤの防退が主な仕事で、あとは大して病人もゐない筈、ただ今まで醫者がゐなかつたところだから、ひよつとすると何でもかでも診て貰ひにくるかも知れないがと云はれたのだが、村に付いたその夜、圭介が最初の患者として手當したのは、ざくろのやうに頭を割つた血まみれの男であつた。

村人と同じ茅葺の家に、夜具の荷物だけ解いて、やつと横になつた寝入りばなだつた。公醫さあ、公醫さあ、と甲高く叫ぶ聲で表の戸がはげしく叩かれるのに、夫婦は機械のやうに飛び起きた。街でも夜中に起されるのは馴れてゐるが、こんなに騒騒しく戸を叩かれるのは初めてだ。いそいで戸をあけると、戸板らしいものを圍んで五六人の黒い姿が、一瞬さは

三

祭が近づいたので、赤城の城隍廟附近はかなりさわがしがつた。廟前の僅かばかりの空地では、苦力たちが芝居の小舎を急設するためにいそがしげに働いてゐたし、またその苦力たちを自あてに雇ひ子だとか、ナンパだとか、龍眼陳たとかを賣りつけやうとする露店商の仲間は、ところせましばかりに押かけで口々になかどなつてゐた。

阿梨はそれらの人たちの間を通り抜けて、赤地に金文字で霞海城隍廟と浮彫にしてある楹額のかゝつた古廟の中へ入つて行つた。城隍廟の御神像の前に恭々しくぬかいて、阿梨は持つて来た線香をそつと香爐に立てた。それからもう一度廟の入口に引き返して、其處に備へてある大香爐にも三本の線香を立てた。

「あら、阿梨さん、来てゐたの？」

ふと聲をかけられて、阿梨はびつくりしたやうに顔をふり向けた。それは隣室の友蔵と泰娘であつた。大きな牡丹を薄く透かした水色の長衫を着て、泰娘はにこやかに立つてゐた。

「まあ！ あたしお勝ひしたのよ。だれとお留守だつたでせうだから一人でおまいりに来たの。」

「阿梨は、友の美しい服装を見て、ほんとによく似合ふわ、と心に思ひやう云つた。」

「あたしもね、こゝへくるつもりで出たんだけど、一寸寄道したもんだから少し遅くなつて……」

「泰娘さんのところ？ さうでせう。」

「ええ。」

「泰娘さんなら、うらやましいひと。」

二人は楽しさうに笑ひあつた。そして廟の中へ入つて行つた。二人とも大稻埕の若い花嫁であつた。

「ほら、今日はこんなにお供えものを持つて来たのよ。」

泰娘は手にしたのた包を開いて、金紙、線香、葱、卵、櫻果などを取り出した。

「ほんとにたくさんねえ。」

「ええ。だつて、お願ひさう下さつたんですもの。」

「いゝわねえ、あたしもよくお祈りするわ。」

「それがいゝことよ。きつと阿梨さんにも幸福がくるわ。」

供物を神前の机の上に並べながら、阿梨はバトロンの鏡の笑顔に空気に描いた。すると神様も阿梨の間からおこやかな笑ひをお洩らしになつたやうな氣がした。泰娘はあわてゝ頭をさげたら、それから阿梨と一緒に大香爐のそばへ歩んで行つた。

9 城隍爺祭

城隍爺祭(第一巻収録)

戦後初めてのの本格的な

台湾文学作品集

▼本作品集の特色

- 日本人作家の代表作を通覧閲読できるように集成した。
- 入手・閲覧の難しい作品を多く収録した。
- 内地人作家が台湾を描いた初めての本格的な作品集を別巻に収録した。
- 研究資料としての側面を考慮し、できるだけ才リジナルな形での復刻に留意した。
- 台湾文学研究の手引として、収録作品の解説のほか、作家の著作年譜や略歴を付した。
- 近代日本文学の空白を補完する資料。
- 文学者の台湾観・植民地観が概観できる。
- 台湾植民地研究の深化にも貴重な資料。

——好評既刊図書のご案内——

中島利郎・河原功・下村作次郎監修

日本統治期台湾文学集成

——第一期・全20巻——

未発表作品や新たな研究分野——通俗文学、探偵小説、戯曲・脚本、随筆、詩集などの「日本語作品」を網羅。新しい地平を拓く画期的な台湾文学資料集成。

〈各巻内容〉1 2 3 台湾長篇小説集一・二・三 4 台湾短篇小説集 5 6 台湾純文学集一・二 7 8 台湾通俗文学集一・二 9 台湾探偵小説集 10 11 12 13 14 台湾戯曲・脚本集一・二・三・四・五 15 16 17 台湾随筆集一・二・三 18 台湾詩集 19 20 葉歩月作品集一・二
揃本体 189,000 円 (分売します)〈編集復刻・四六判〉

——第二期・全10巻——

幻の資料の発掘、未公刊作品の単行本化、入手困難な雑誌所収作品の公刊、稀覯資料の復刻等、日本語作品の他、漢文雑誌・新聞から「漢文通俗小説」も収録。

〈各巻内容〉21 22 「台湾鉄道」作品集一・二 23 「台湾新報・青年版」作品集 24 25 台湾漢文通俗小説集一・二 26 27 「吳鳳」関係資料集一・二 28 「サヨンの鐘」関係資料集 29 王昶雄作品集 30 吳濁流作品集 揃本体 96,000 円 (分売します)〈編集復刻・四六判〉

日本統治期台湾文学小辞典

中島利郎編・著 主要な台湾人作家、日本人作家、文学関連事項等、約 300 項目及び、「写真で見る日本統治期台湾文学小史」を収録。 本体 9,000 円〈A5判〉

大村益夫・布袋敏博編

近代朝鮮文学日本語作品集

第一期【1939-1945】全9巻

近代朝鮮文学の最も暗黒の時期の作品を集成。日本語の作品が集中的に発表され、朝鮮近代文学が最高の極みに達した時代—李光洙、金史良など 141 人、473 編収録。

■創作篇 全6巻／揃本体 68,000 円〈編集復刻・A5判〉

■評論・随筆集 全3巻／揃本体 36,000 円〈編集復刻・A5判〉

第二期【1901-1938】全8巻

第二期は、1901年～38年までに朝鮮人によって書かれた日本語の作品と、日本語に翻訳された作品を集成。李人植、崔承喜、金東仁、張赫宙など 191 人、442 編収録。

■創作篇 全5巻／揃本体 56,000 円〈編集復刻・A5判〉

■評論・随筆集 全3巻／揃本体 34,000 円〈編集復刻・A5判〉

近代朝鮮文学と日本

大村益夫著 日本における朝鮮近代文学研究の先駆者である著者が、数多くの著作の中から精選し編纂。朝鮮近代文学史研究の基本的文献。 本体 7,000 円〈A5判〉

日本統治期台湾文学 日本人作家作品集

中島利郎・河原功編〈新装版〉

全五巻・別巻一

西川満、濱田隼雄、坂口禰子、中山侑、川合三良の代表作を編集復刻。
別巻では内地作家（12名）が台湾を描いた作品を収録した。
台湾文学研究に必読の基本資料である。

〈本書の構成〉

- 第一巻 [西川満Ⅰ] 中島利郎編 480頁
- 第二巻 [西川満Ⅱ] 中島利郎編 514頁
- 第三巻 [濱田隼雄Ⅰ] 河原功編 488頁
- 第四巻 [濱田隼雄Ⅱ] 河原功編 510頁
- 第五巻 [坂口禰子・中山侑・川合三良] 中島利郎編 624頁
- 別巻 [内地作家] 河原功編 628頁

宇野浩二／佐藤春夫／伊藤永之介／中村地平／真杉静枝／
田村泰次郎／北原白秋／大鹿卓／野上弥生子／窪川（佐多）
稲子／丹羽文雄／広津和郎

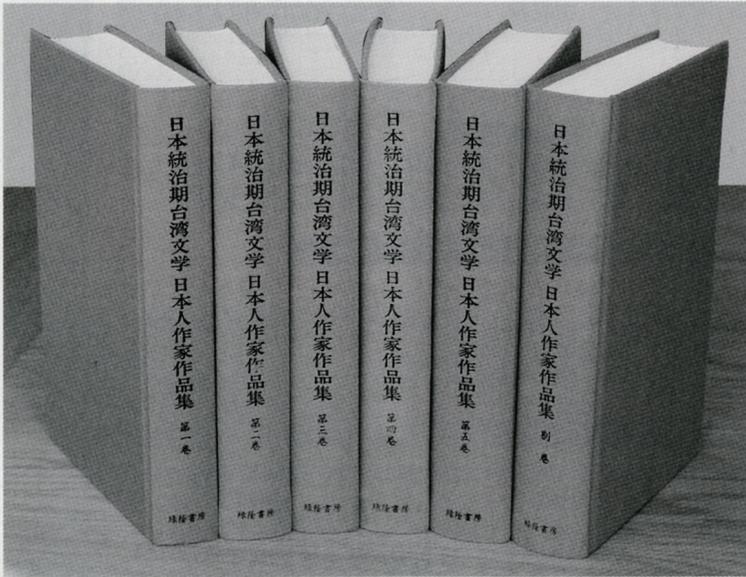
〈推薦〉 下村作次郎・藤井省三・松永正義

〈体裁〉 編集復刻版・四六判・上製クロス装・総3,244頁

〈記本〉 全巻一括記本 [08年2月刊]

〈定価〉 本体揃価格≡58,000円＋税（分売不可）

ISBN978-4-89774-020-1 C3391



*新装版では表紙のクロスに、ダイニツクのアートペラムEを使用しました。

緑蔭書房

東京都板橋区板橋 1-13-1 ☎ 03(3579)5444

お申し込みは下記取扱書店へ